

4年

国語

短歌・慣用句

4年 組

名前

□短歌を五七五七七に分けて、() に
ひらがなで書きましょう。
また、その意味を選んで、
□にア・イ・ウの記号で書きましょう。

短歌は
五七五七七か
らできていて
季語はなくて
もいいよ。



① 奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の声聞くとときぞ秋は悲しき

- (おくやまに) (もみじふみわけ) (なくしかの)
- (こえきくとときぞ) (あきはかなしき)

ウ

② 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる

- (あききぬと) (めにはさやかに) (みえねども)
- (かぜのおとにぞ) (おどろかれぬる)

ア

③ 久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

- (ひさかたの) (ひかりのどけき) (はるのひに)
- (しづごころなく) (はなのちるらむ)

イ

ア

秋が来たのは目にははつきり見えなけれど、風の音にそのおとずれをはっと気づかされたよ。

イ

日の光が差すのどかな春の日に、どうして落ち着いた心もなく、桜の花は散っていくのだからか。

ウ

奥山で散りつもつた紅葉の葉をふみわけながら鳴く鹿の声を聞くとときこそ、秋をもの悲しく感じる。

ぼくも
短歌を作ろう。
「ひらひらと
まい散る落ち葉
ふみしめて
食べているのは
やきいもだ」

下の句が…



きんた

ミオ

② □の中から一つ選んで、
①～⑤の慣用句を完成させ
せましょう。

- ① (耳)にたこができる
- ② (目)にあまる
- ③ (鼻)をあかす
- ④ (歯)が立たない
- ⑤ (口)が軽い

歯 耳 口 目 鼻